

有明海・八代海総合調査評価委員会 委員会報告書 別添資料

- 目 次 -

別添資料 1	：有明海・八代海総合調査評価委員会 委員名簿	1
別添資料 2	：有明海・八代海総合調査評価委員会小委員会 委員名簿	2
別添資料 3	：有明海・八代海総合調査評価委員会開催状況	3
別添資料 4	：有明海・八代海の流入負荷量及び排出負荷量 (BOD、T-P)	6
別添資料 5	：汚濁負荷算定方法	8
別添資料 6	：有明海・八代海に流入する河川	10
別添資料 7	：河川 (筑後川) からの土砂の持出し等	11
別添資料 8	：球磨川の砂利採取量	11
別添資料 9	：公共用水域水質測定 of 経年的傾向	12
別添資料 10	：有明海の底質の水平分布	18
別添資料 11	：有明海の水深分布	19
別添資料 12	：熊本沖の底質	20
別添資料 13	：大浦沖・諫早湾口の底質	21
別添資料 14	：有明海及び八代海の底質中の重金属の測定結果	22
別添資料 15	：有明海の底質中の有害化学物質・農薬の測定結果	23
別添資料 16	：ノリ養殖施設の影響	24
別添資料 17	：熊本港建設の影響	25
別添資料 18	：八代海の潮流	26
別添資料 19	：有明海湾奥部の干潟縁辺域における貧酸素水塊	28
別添資料 20	：八代海における溶存酸素の経年変化	29
別添資料 21	：有明海・八代海の海岸改変状況	30
別添資料 22	：熊本県の区分別海岸線延長と比率	30
別添資料 23	：八代海の内湾・浦湾、魚類養殖場の水質及び底質	31
別添資料 24	： <i>Cochlodinium polykrikoides</i> の赤潮発生頻度	33
別添資料 25	： <i>Cochlodinium polykrikoides</i> の赤潮発生状況	33
別添資料 26	： <i>Cochlodinium polykrikoides</i> の増殖応答	34
別添資料 27	： <i>Cochlodinium polykrikoides</i> 分布拡大図 (2000 年 八代海)	34
別添資料 28	：有明海の赤潮原因種の休眠期細胞分布	35
別添資料 29	：八代海における赤潮原因種の休眠期細胞	36
別添資料 30	：有明海における赤潮原因プランクトン別漁業件数	37
別添資料 31	：八代海における赤潮原因プランクトン別漁業件数	42
別添資料 32	：タイラギ成貝の生息量調査結果	44
別添資料 33	：タイラギ稚貝の密度	44
別添資料 34	：基質の違いによるタイラギ浮遊幼生の着底	45
別添資料 35	：覆砂効果実証試験結果	46
別添資料 36	：有明海北西部の底質調査結果	47
別添資料 37	：タイラギの漁獲努力量 (大浦漁協)	48
別添資料 38	：熊本県のアサリ漁獲量	48

別添資料 39	：アサリ資源と漁獲との関係について	49
別添資料 40	：熊本県緑川河口の干潟調査地点	50
別添資料 41	：干潟のマンガン濃度とアサリの生物量の関係	51
別添資料 42	：クルマエビの産卵場所と稚エビの出現場所	51
別添資料 43	：ノリ酸処理剤の魚類への影響試験結果	52
別添資料 44	：硬骨魚類、軟骨魚類の季節別漁獲量割合	53
別添資料 45	：有明海北西部の底質環境と底生動物の調査地点	54
別添資料 46	：有明海北西部における多毛類、甲殻類の調査結果	54
別添資料 47	：2000 年以降の有明海の底生生物調査結果	55
別添資料 48	：ノリの主な病気	58
別添資料 49	：潜水坪刈調査による海域別平均湿重量の比較	58
別添資料 50	：底面付近の SS 濃度と潮汐の関係	59
別添資料 51	：流速出現頻度と浮泥の堆積状況	59
別添資料 52	：潮流と底質の関係	60
別添資料 53	：筑後川流域の土砂動態	61
別添資料 54	：筑後川感潮域における土砂動態	61
別添資料 55	：緑川における砂利採取量、ダム堆砂量	62
別添資料 56	：諫早湾内の底質 (COD) の状況	63
別添資料 57	：表層堆積物中の有機炭素安定同位対比 (^{13}C) の分布	64
別添資料 58	：諫早湾における浮泥量調査結果	64
別添資料 59	：佐賀県海域の夏季 DO 濃度の経年変化	65
別添資料 60	：有明海湾奥部の底質の経年変動	66
別添資料 61	：ノリ酸処理剤の底質への移行	67
別添資料 62	：有明海の植物プランクトンの増殖速度	68
別添資料 63	：有明海における珪藻赤潮の発生日数	69
別添資料 64	：有明海の平均透明度の状況	70
別添資料 65	：主要河川の平均流量の経年変化	71
別添資料 66	： <i>Chattonella</i> 属と鉄との関係	72
別添資料 67	：潮汐と <i>Chattonella</i> 赤潮等との関係	73
別添資料 68	：筑後川からの SS の負荷量と有明海湾口部の塩分	74
別添資料 69	：八代海における <i>Skeletonema costatum</i> (珪藻) の増殖速度	75
別添資料 70	：八代海における平均透明度の状況	76
別添資料 71	：冬季の珪藻赤潮の平均赤潮確認日数と平均水温の推移	76
別添資料 72	：八代海における平均赤潮確認日数と平均透明度の推移	77
別添資料 73	：有明海における富栄養度指数の経年変化	78
別添資料 74	：諫早湾内の仔魚分布	78
別添資料 75	：諫早干拓調整池からの負荷量	79

別添資料1：有明海・八代海総合調査評価委員会 委員名簿

表 1 有明海・八代海総合調査評価委員会 委員名簿

(平成18年4月1日現在、五十音順)

氏名	職名
相生 啓子	元東京大学海洋研究所助手
荒牧 軍治(委員長代理)	佐賀大学理工学部教授
伊藤 史郎	佐賀県生産振興部水産課副課長
大和田 紘一	熊本県立大学環境共生学部長
岡田 光正	広島大学理事・副学長
楠田 哲也	公立大学法人北九州市立大学大学院国際環境工学研究科教授
小松 利光	九州大学大学院工学研究院教授
三本菅善昭	前独立行政法人水産大学校理事長
須藤 隆一(委員長)	生態工学研究所代表
清野 聡子	東京大学大学院総合文化研究科助手
滝川 清	熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター教授
中田 英昭	長崎大学水産学部長
原 武史	社団法人日本水産資源保護協会総括参与
福岡 捷二	中央大学研究開発機構教授
細川 恭史	独立行政法人港湾空港技術研究所理事
本城 凡夫	九州大学大学院農学研究院教授
森下 郁子	社団法人淡水生物研究所所長
山口 敦子	長崎大学水産学部助教授
山田真知子	公立大学法人福岡女子大学人間環境学部環境理学科教授
山本 智子	鹿児島大学水産学部助手
菊池 泰二(臨時委員)	元九州ルーテル学院大学人文学部教授

別添資料2：有明海・八代海総合調査評価委員会小委員会 委員名簿

表 2 有明海・八代海総合調査評価委員会小委員会 委員名簿

(五十音順)

区分	氏名	職名
委員	荒牧 軍治(委員長)	佐賀大学理工学部教授
	須藤 隆一	生態工学研究所代表
	本城 凡夫	九州大学大学院農学研究院教授
専門委員	荒木 宏之	佐賀大学低平地研究センター長
	本田 清一郎(平成 15 年度) 内場 澄夫(平成 16～17 年度) 小林 信(平成 18 年度)	福岡県水産海洋技術センター所長
	川野 田寛夫	大分大学教育福祉科学部教授
	前田 和宏(平成 15 年度) 古賀 吾一(平成 16～18 年度)	鹿児島県水産技術開発センター所長 (旧鹿児島県水産試験場)
	小坂 安廣(平成 15～17 年度) 濱口 博彦(平成 18 年度)	長崎県総合水産試験場場長
	伊勢田 弘志(平成 15 年度) 堤 泰博(平成 16～17 年度) 岩下 徹(平成 18 年度)	熊本県水産研究センター所長
	中村 武弘	長崎大学環境科学部教授
	白島 勲(平成 15 年度) 野口 敏春(平成 16～18 年度)	佐賀県有明水産振興センター所長
	弘田 禮一郎	熊本大学名誉教授

別添資料3：有明海・八代海総合調査評価委員会開催状況

表 3(1) 有明海・八代海総合調査評価委員会開催状況

	主な報告内容
第1回 (H15.2.7 開催)	1)「有明海及び八代海を再生するための特別措置に関する法律」等について <環境省> 2)有明海及び八代海の水環境の状況について<環境省> 3)有明海及び八代海の漁業・養殖業等の状況について<農林水産省水産庁>
第2回 (H15.3.24 開催)	1)有明海の現状について - 13年度調査と過去の資料の解析を踏まえて<農林水産省水産庁> 2)八代海域における環境保全のあり方について<国土交通省九州地方整備局、弘田禮一郎熊本大学名誉教授>
第3回 (H15.6.9 開催)	1)有明海及び八代海の再生に係る評価に必要な調査について<環境省> 2)自然環境保全基礎調査結果について<環境省>
第4回 (H15.9.25 開催)	1)有明海及び八代海に係るヒアリング
第5回 (H15.10.27 開催)	1)八代海における環境と生物の動態について<大和田委員、菊池委員(当時)、本城委員、弘田専門委員> 2)有明海において諫早湾の果たす水理学的役割について<小松委員> 3)有明海の海域環境の変動特性について<滝川委員> 4)有明海的环境変化が漁業資源に及ぼす影響に関する総合研究について<中田英昭教授(長崎大学水産学部)>
第6回 (H15.11.10 開催)	1)有明海におけるノリ養殖について<鬼頭委員(当時)> 2)富栄養化の進行していない有明海奥部海域で大規模な赤潮が起きるメカニズムについて<堤裕昭教授(熊本県立大学環境共生学部教授)> 3)有明海における水質変動の支配要因について<磯部雅彦教授(東京大学大学院)>
第7回 (H16.1.26 開催)	1)有明海島原半島沿岸部における流況の定点観測について<小松委員> 2)有明海北部海域のタイラギ資源の減少とアゲマキの大量死について<伊藤委員> 3)トビエイ類による二枚貝類の食害について<山口委員> 4)有明海海域環境調査(国土総合開発事業調整費調査)について<農林水産省水産庁> 5)諫早湾干拓事業開門調査報告書について<農林水産省農村振興局> 6)中・長期開門調査検討会議報告書について<農林水産省農村振興局> 7)有明海北東部漁場における貧酸素水塊の発生について<福岡県> 8)基礎的データ集について<環境省>
第8回 (H16.3.22 開催)	1)有明海海域環境調査について(質問等への回答)<農林水産省水産庁> 2)諫早湾干拓事業開門総合調査について(補足説明)<農林水産省農村振興局> 3)有明海の漁業生産及び漁場環境に関する調査の結果について<農林水産省水産庁> 4)小委員会の作業結果の報告等<荒牧小委員会委員長> 5)有明海貧酸素水塊広域連続観測調査について<農林水産省、環境省> 6)有明海・八代海再生方策検討調査について<環境省> 7)有害赤潮動向調査について<長崎県> 8)環境適応型ノリ養殖対策試験について<熊本県>
第9回 (H16.5.19 開催)	1)行政対応特別研究「有明海の海洋環境の変化が生物生産に及ぼす影響の解明」について<独立行政法人水産総合研究センター西海区水産研究所> 2)有明海等環境情報・研究ネットワークについて<農林水産省水産庁> 3)平成15年に有明海で発生した粘質状浮遊物について<独立行政法人水産総合研究センター西海区水産研究所> 4)有明海における資源生物生産と環境に関する調査について<農林水産省水産庁> 5)有明海における公共用水域水質測定結果について<環境省>

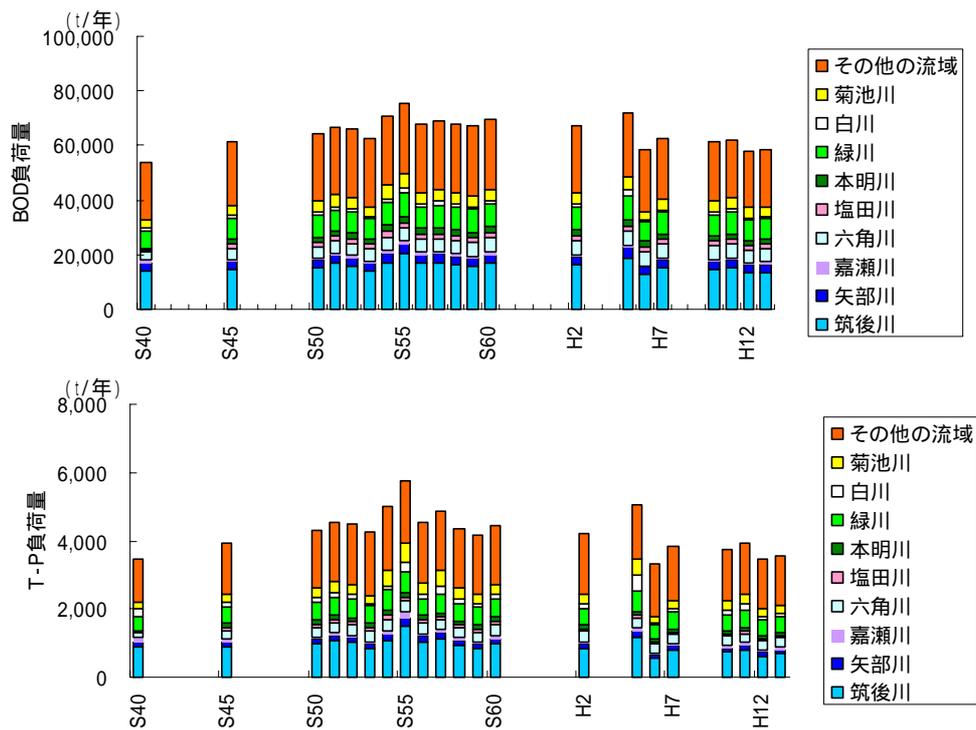
表 3(2) 有明海・八代海総合調査評価委員会開催状況

	主な報告内容
	6) 有明海水環境調査結果について<環境省> 7) 福岡県有明海地先底泥中における珪藻休眠期細胞の分布と消長について<福岡県> 8) タイラギ浮遊幼生の飼育と着底について<佐賀県> 9) 諫早湾におけるタイラギ移植試験について<長崎県> 10) シャットネラ赤潮予察調査事業について<長崎県> 11) アサリの資源管理に関する研究について<熊本県>
第 10 回 (H16.6.23 開催)	1) 有明海・八代海の問題点とその原因・要因として指摘されている事項について<岡田委員> 2) 中・長期開門調査検討会議について<農林水産省農村振興局> 3) 第 9 回有明海・八代海総合調査評価委員会における行政特研報告への滝川委員の質問への回答<独立行政法人水産総合研究センター西海区水産研究所> 4) マクロベントスのデータ整理(第 9 回評価委員会において指摘された事項への対応)<環境省>
第 11 回 (H16.8.23 開催)	1) 有明海・八代海の問題点とその原因・要因として指摘されている事項について<岡田委員> 2) 小委員会における作業の状況<荒牧小委員会委員長> 3) 有明海の問題点の仕組みの更なる解明のための調査について<農林水産省農村振興局> 4) 有明海・八代海研究者会議の取り組みの紹介<楠田委員>
第 12 回 (H16.12.6 開催)	1) 有明海・八代海の問題点とその原因・要因として指摘されている事項について<岡田委員> 2) 有明海・八代海における赤潮の発生について<本城委員> 3) 有明海・八代海に関する情報項目一覧表(案)について<環境省> 4) 小委員会における作業について<荒牧小委員会委員長> 5) 平成 16 年度・有明海貧酸素水塊広域連続観測調査について<独立行政法人水産総合研究センター西海区水産研究所>
第 13 回 (H17.4.12 開催)	1) 有明海・八代海における赤潮の発生について<環境省> 2) 有明海・八代海における河川の影響について<福岡委員> 3) 小委員会における作業について<荒牧小委員会委員長> 4) 有明海の漁業生産及び漁場環境に関する補完調査について<農林水産省水産庁> 5) 諫早湾におけるタイラギ移植試験について<長崎県> 6) 諫早湾内の小長井町釜地区干潟の貧酸素化について<長崎県> 7) 新たなアサリ増殖手法への取り組みについて<熊本県>
第 14 回 (H17.6.16 開催)	1) 有明海・八代海における河川の影響に対する指摘事項への回答<福岡委員> 2) 有明海・八代海における河川の影響について<環境省> 3) 有明海・八代海における底質環境について<滝川委員> 4) 有明海・八代海における底生生物について<菊池臨時委員> 5) 有明海の再生に向けての調査(平成 16 年度の結果の概要)について<農林水産省農村振興局> 6) 干潟等沿岸海域再生調査結果について<熊本県>
第 15 回 (H17.9.12 開催)	1) 有明海・八代海における底質環境について<環境省> 2) 有明海・八代海における底生生物について<環境省> 3) 有明海・八代海における貧酸素水塊について<環境省> 4) 有明海における二枚貝について<伊藤委員[水産資源検討グループ]> 5) 有明海・八代海への汚濁負荷の変遷について<環境省>
第 16 回 (H17.11.2 開催)	1) 有明海における二枚貝について<環境省> 2) 有明海・八代海への汚濁負荷の変遷について<環境省> 3) 有明海における潮位・潮流について<細川委員[潮流・潮汐ワーキング]>
第 17 回 (H17.12.12 開催)	1) 水産資源に関するとりまとめ(2)主に漁業資源について<中田委員[水産資源検討グループ]>

表 3(3) 有明海・八代海総合調査評価委員会開催状況

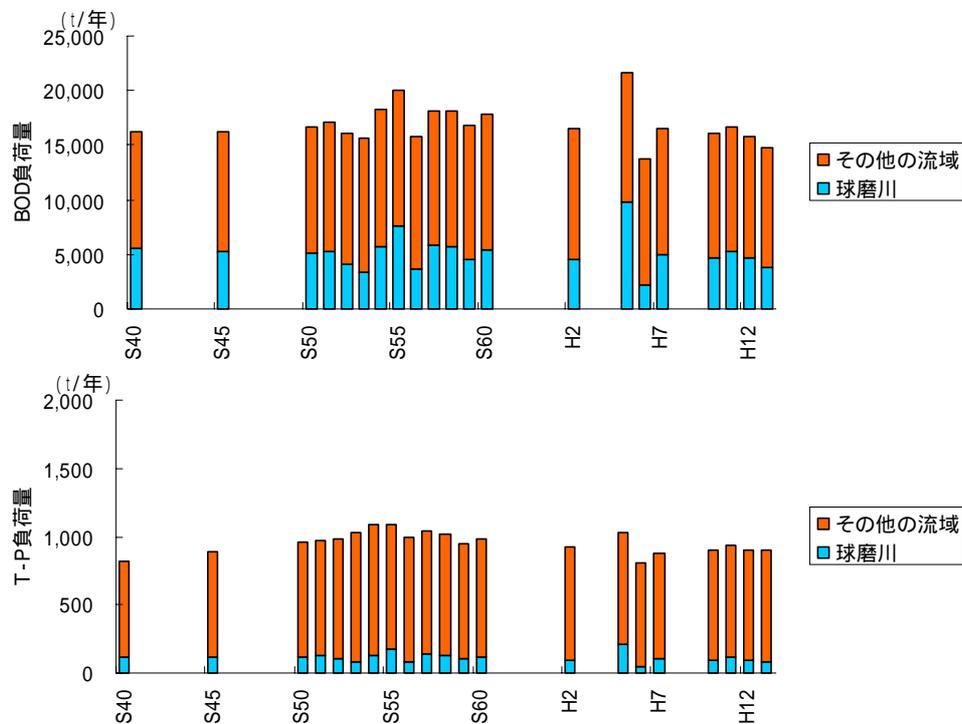
	主な報告内容
	2) 有明海の魚類に関する最近の調査報告 < 山口委員 [水産資源検討グループ] > 3) 有明海潮流に関する最近の成果 < 小松委員 > 4) 「有明海の生態系再生をめざして」(日本海洋学会・海洋環境問題委員会編)の紹介 < 佐々木克之氏 (元中央水産研究所海洋生産部) >
第 18 回 (H18.1.30 開催)	1) 小委員会における作業について < 荒牧小委員会委員長 > 2) 中間取りまとめ(素案)について < 環境省 > 3) 国内外の他の閉鎖性海域における取り組みについて < 細川委員 >
第 19 回 (H18.2.23 開催)	1) 中間取りまとめ(案)について < 環境省 > 2) 問題点と原因・要因との関連に関する今後の作業の方向性(試案)について < 岡田委員 >
第 20 回 (H18.4.28 開催)	1) 問題点と原因・要因の検証(試案)について < 岡田委員 > 2) 中間取りまとめに対するパブリック・コメント < 環境省 > 3) 平成 17 年度有明海貧酸素水塊広域連続観測結果概要及び平成 18 年度計画の概要 < 独立行政法人水産総合研究センター西海区水産研究所 > 4) 有明海改善のための実証試験について < 農林水産省水産庁 >
第 21 回 (H18.6.29 開催)	1) 問題点と原因・要因の検証(試案・修正中)について < 岡田委員 > 2) 小委員会の作業について < 荒牧小委員会委員長 > 3) 環境変化の仕組の更なる解明のための調査-平成 17 年度調査結果の概要-< 農林水産省農村振興局 > 4) 熊本県：有明海・八代海干潟等沿岸海域再生検討委員会～有明海・八代海干潟等沿岸海域の再生に向けて～ < 滝川委員 >
第 22 回 (H18.8.24 開催)	1) 問題点と原因・要因の検証(試案)について < 岡田委員 > 2) 底質の泥化、有機物・硫化物増加に関する知見の整理(作業中)について < 環境省 > 3) 有明海の環境変化が漁業資源に及ぼす影響に関する総合研究の成果 < 中田委員 > 4) 佐賀大学有明海総合研究プロジェクト < 荒牧委員、佐賀大学速水助教授 >
第 23 回 (H18.9.27 開催)	1) 水産資源グループによる検討内容 < 中田委員 [水産資源検討グループ] > 2) 赤潮発生状況と水質の推移 < 山田委員 [赤潮検討グループ] > 3) 赤潮の発生件数の増加・大規模化に関する知見の整理、検討 < 本城委員、環境省 [赤潮検討グループ] > 4) 八代海に関する検討 < 大和田委員 [八代海グループ] > 5) 再生への取り組み～現地試験と再生策の検討～ < 滝川委員 > 6) 有明海生物生息環境の俯瞰型再生と実証試験 < 楠田委員 > 7) 委員会報告目次案 < 環境省 >
第 24 回 (H18.10.25 開催)	1) 潮流潮汐 WG の検討結果 < 細川委員 [潮流潮汐ワーキンググループ] > 2) 問題点と原因・要因の検証について(アサリ) < 菊池臨時委員 > 3) 汚濁負荷の検討結果 < 環境省 > 4) 諫早湾の状況整理 < 環境省 > 5) 委員会報告書骨子案について < 環境省 >
第 25 回 (H18.11.29 開催)	
第 26 回 (H18.12.20 開催)	

別添資料4：有明海・八代海の流入負荷量及び排出負荷量（BOD、T-P）



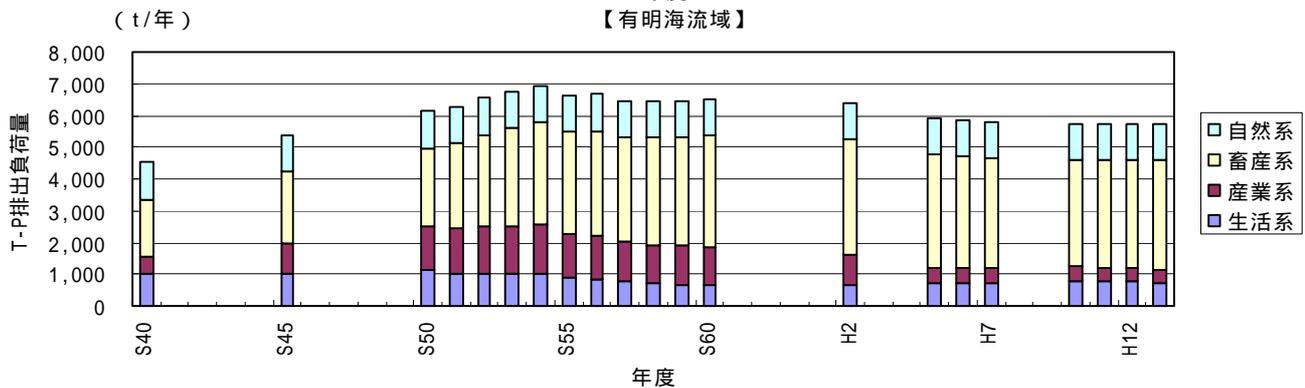
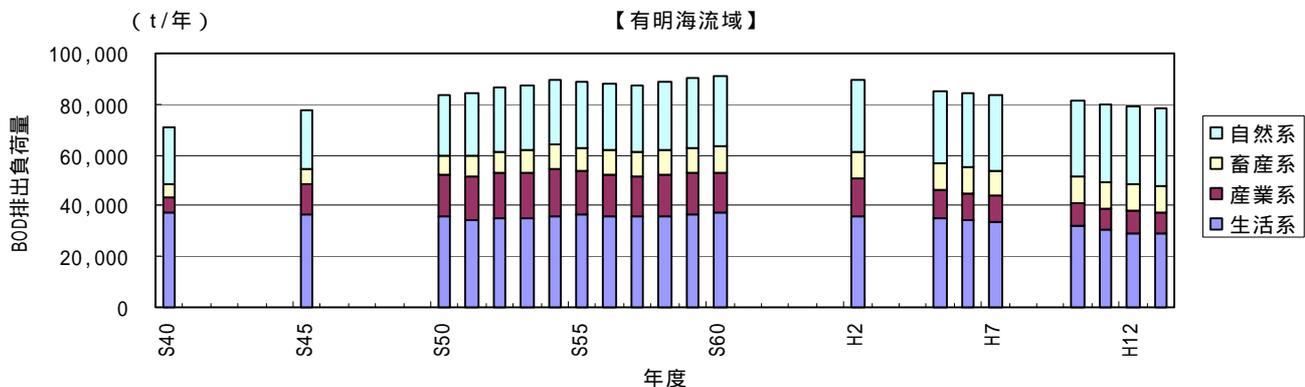
出典：環境省（2005年）「第15回有明海・八代海総合調査評価委員会 資料-4 有明海・八代海への汚濁負荷の変遷について」

図1 有明海流域の流入負荷量の変遷：BOD、T-P



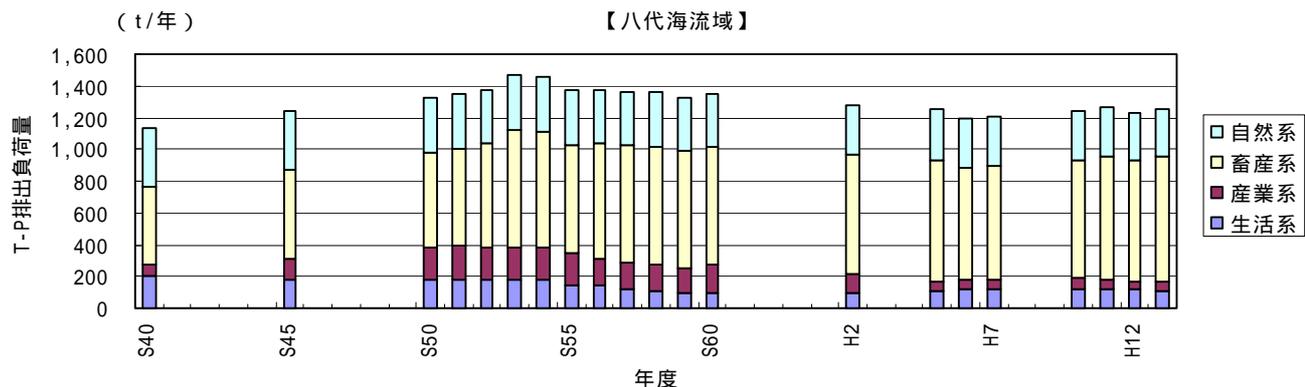
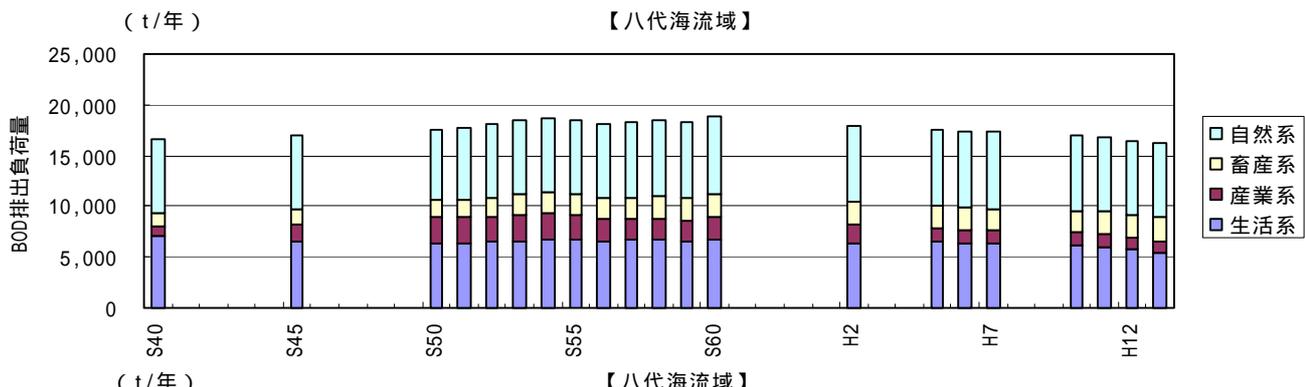
出典：環境省（2005年）「第15回有明海・八代海総合調査評価委員会 資料-4 有明海・八代海への汚濁負荷の変遷について」

図2 八代海流域の流入負荷量の変遷 BOD、T-P



出典：環境省（2005年）「第15回有明海・八代海総合調査評価委員会 資料-4 有明海・八代海への汚濁負荷の変遷について」

図3 有明海流域の排出負荷量の変遷：BOD、T-P



出典：環境省（2005年）「第15回有明海・八代海総合調査評価委員会 資料-4 有明海・八代海への汚濁負荷の変遷について」

図4 八代海流域の排出負荷量の変遷

別添資料5：汚濁負荷算定方法

1．汚濁負荷量の算定項目

海域への汚濁負荷量の算定項目は、COD、T-N 及び T-P とした。

2．汚濁負荷量の算定年度

海域への汚濁負荷量の算定年度は、「第 15 回有明海・八代海総合調査評価委員会（平成 17 年 9 月 2 日開催）」で報告した陸域からの流入負荷量の算定年度と同様とした。算定年度は表 4 に示すとおりであり、21 カ年とした。

表 4 海域への汚濁負荷量の算定年度

年度	算定年度	年度	算定年度	年度	算定年度	年度	算定年度
昭和 40		昭和 50		昭和 60		平成 7	
昭和 41		昭和 51		昭和 61		平成 8	
昭和 42		昭和 52		昭和 62		平成 9	
昭和 43		昭和 53		昭和 63		平成 10	
昭和 44		昭和 54		平成元		平成 11	
昭和 45		昭和 55		平成 2		平成 12	
昭和 46		昭和 56		平成 3		平成 13	
昭和 47		昭和 57		平成 4		/	
昭和 48		昭和 58		平成 5			
昭和 49		昭和 59		平成 6			

3．海域への汚濁負荷量の算定方法

3.1 陸域からの流入負荷量

一級河川と塩田川の水質基準点より上流域については L-Q 式、その他の流域については原単位法で算定した。

注) 算定で用いた原単位は、平成 13 年度と平成 14 年度に実施した「国土総合開発事業調整費 有明海海域環境調査」(農林水産省 水産庁、農林水産省 農村振興局、経済産業省 資源エネルギー庁、国土交通省 河川局、国土交通省 港湾局、環境省 環境管理局)で用いられた原単位をベースにしている。

3.2 海域への直接汚濁負荷量

3.2.1 海域への直接汚濁負荷源の分類

降雨による負荷

ノリ養殖で使用する酸処理剤による負荷

ノリ養殖で使用する施肥による負荷

魚類養殖の飼料による負荷

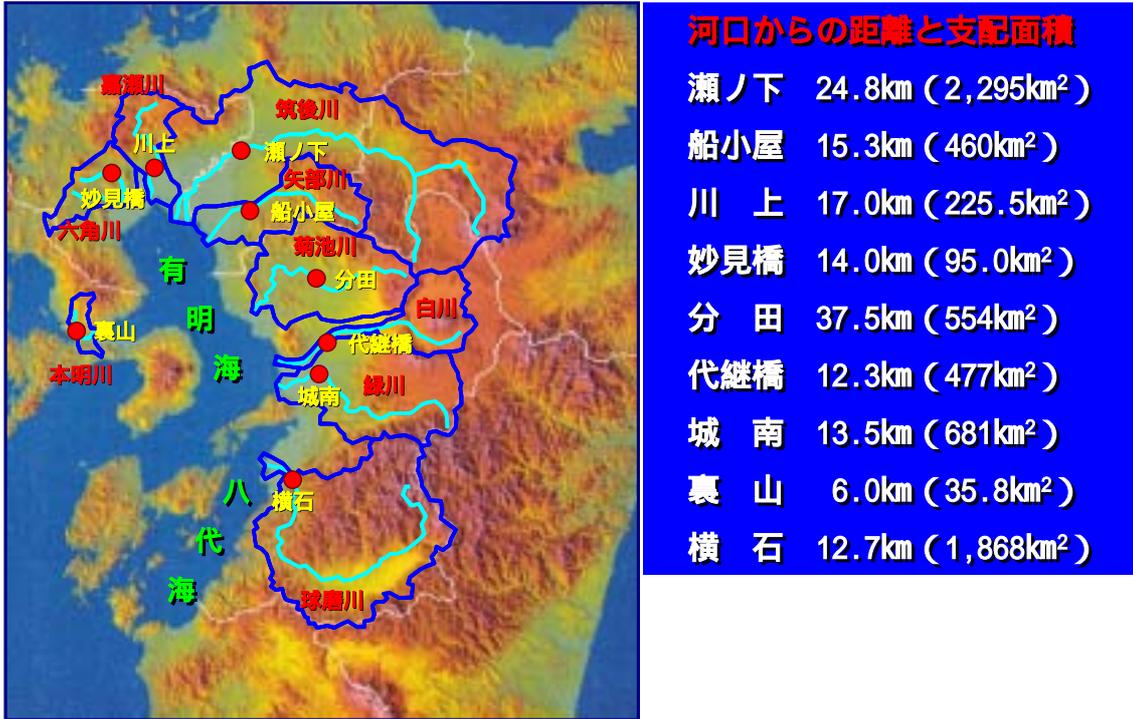
底質からの溶出による負荷

3.2.2 海域への直接汚濁負荷量の算定方法

表 5 海域への直接汚濁負荷量の算定方法

汚濁負荷源	算定方法
降雨	<p>負荷量=年間平均降水量×海面面積×単位体積当たりの負荷量 年間平均降水量：有明海、八代海の各沿岸域の気象観測所の各年の降水量の平均。 海面面積：有明海 1,700km²、八代海 1,200km² 単位体積当たりの負荷原単位：「流域別下水道整備総合計画調査指針と解説（平成 11 年版）」の降雨の原単位と有明海、八代海の各沿岸域の気象観測所の平年値から導いた負荷量</p>
ノリ養殖（酸処理剤）	<p>負荷量=酸処理剤の使用量（ton/年）×COD、T-N 及び T-P の含有率 酸処理剤の使用量： 関係県より入手（使用量が不明な年度については、酸処理剤の使用量がノリ収穫量に依存すると仮定して試算） 酸処理剤の COD、T-N 及び T-P の含有率： 関係県から入手した情報、有明海ノリ不作等対策関係調査検討委員会及び既存資料をもとに設定</p>
ノリ養殖（施肥）	<p>【佐賀県で平成 10 年度より実施：T-N のみ】 佐賀県資料を基に設定。但し、使用量が不明な平成 10 年度はノリの収穫量より推定</p>
魚類養殖の飼料	<p>【T-N、T-P のみ】 負荷量 = 配合飼料投餌量 ×（配合飼料の窒素、磷含有量）+ 生餌投餌量 ×（生餌の窒素、磷含有量）- 魚類収穫量 ×（魚体中の窒素、磷含有量）</p> <p>魚類収穫量：農林水産統計年報（ブリ、たい類、その他魚類） 配合飼料投餌量、生餌投餌量： みかけの増肉係数、配合飼料と生餌の比率（平成 14 年データ）及び魚類収穫量から試算。なお、昭和 40 年～60 年は全て生餌給餌と仮定して試算（生餌 = 配合飼料 × 4 で試算）。 みかけの増肉係数：環境省資料、既存資料をもとに設定 生餌、配合飼料の窒素・磷の含有率：環境省資料 魚類の窒素・磷の含有率：環境省資料</p>
底質からの溶出	<p>【T-N、T-P のみ】 環境省調査（有明海、八代海での底質からの溶出調査）から算出</p>

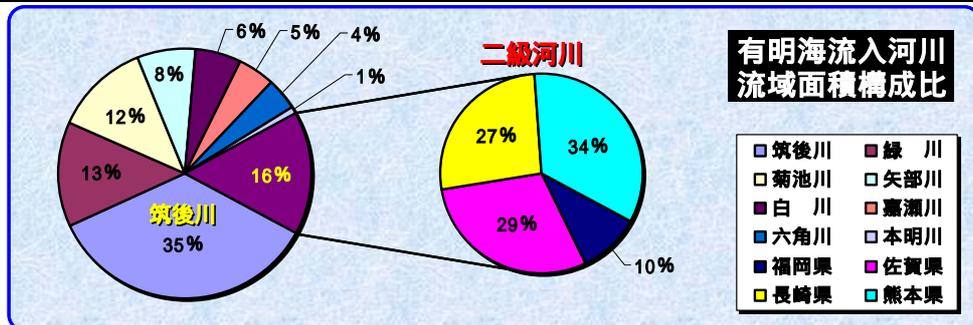
別添資料6：有明海・八代海に流入する河川



出典：福岡捷二（2005）「第13回有明海・八代海総合調査評価委員会 資料-3 有明海・八代海における河川の影響について」

図5 有明海、八代海の流域図

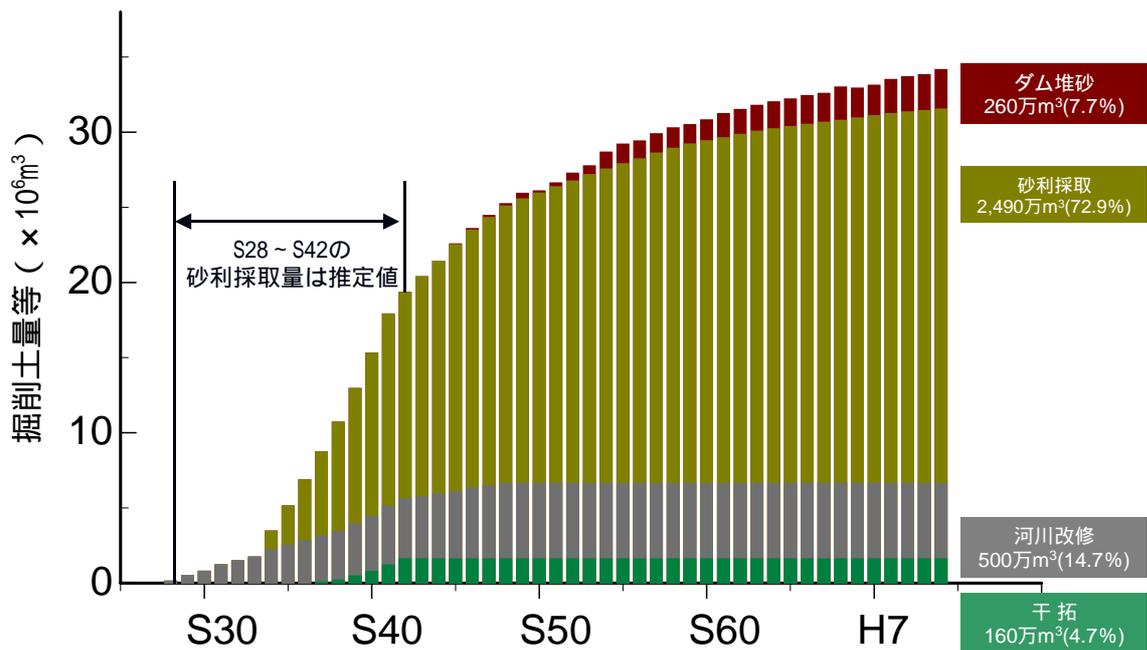
種別	名称等	流域面積 (km ²)	種別	名称等	流域面積 (km ²)				
一級河川	筑後川	2,860	二級河川	有明海流入 104河川	1,303.91				
	緑川	1,100		八代海流入 46河川		1,091.08			
	菊池川	996					有明海	112河川	8,155.91
	矢部川	620							
	白川	480	合計		159河川		11,126.99		
	嘉瀬川	368		八代海流入		球磨川		1,880	
	六角川	341	有明海		112河川		8,155.91		
	本明川	87		八代海		47河川		2,971.08	
八代海流入									



出典：福岡捷二（2005）「第13回有明海・八代海総合調査評価委員会 資料-3 有明海・八代海における河川の影響について」

図6 有明海、八代海の流入河川の流域面積等

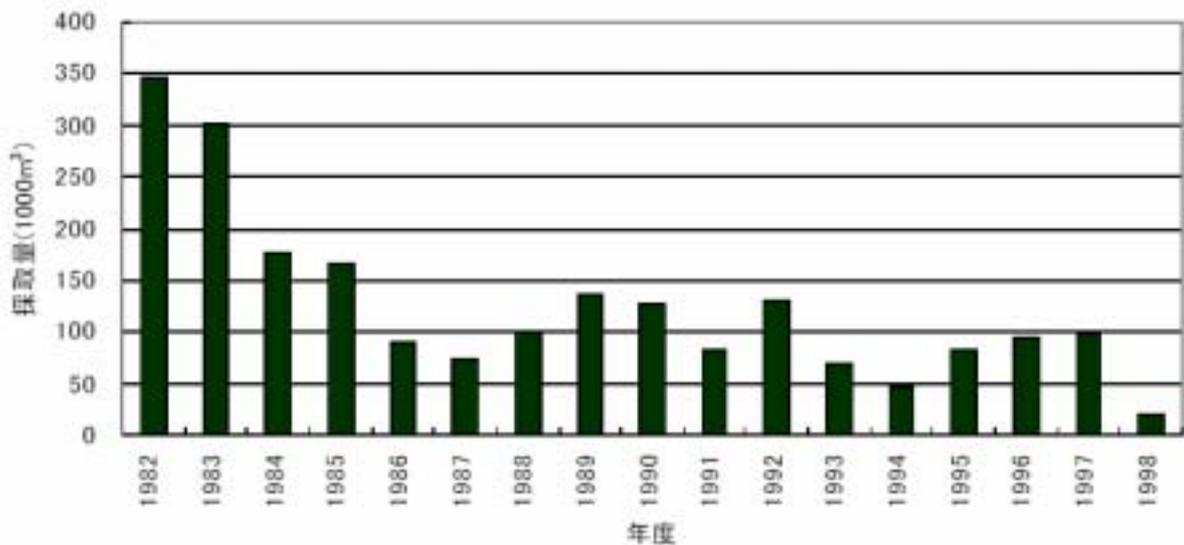
別添資料7：河川（筑後川）からの土砂の持出し等



出典：福岡捷二（2005）「第13回有明海・八代海総合調査評価委員会 資料-3 有明海・八代海における河川の影響について」

図7 河川（筑後川）からの土砂の持出し等

別添資料8：球磨川の砂利採取量



出典：八代海域調査委員会（2003）「八代海域における環境保全のあり方について（資料）」p.58

図8 球磨川における砂利採取量の推移

別添資料9：公共用水域水質測定 of 経年的傾向

表 6 回帰分析結果：有明海

	水温	塩分	COD	T-N	T-P	SS	透明度
St.7(福岡)	+	+	+	-	-	-	
St.9(福岡)	+	+	+	-	-	-	
St.1(熊本)	+		-				+
St.7(熊本)	+		-				+
St.9(熊本)	-		+				-
瀬詰崎沖(長崎)	+	+	-		+		+
島原沖(長崎)	-	+	+		-		-
A-2(佐賀)		+	+	-	+	-	
B-2(佐賀)		+	-	-	+	-	
B-3(佐賀)		+	-	-	+	-	

表 7 回帰分析結果 (データが 1990 年前後からしかないもの)：有明海

	水温	塩分	COD	T-N	T-P	SS	透明度
St.1(熊本)				-	-		
St.7(熊本)				-	-		
St.9(熊本)				-	-		
B-1(長崎)	-	+	-	-	-		
B-2(長崎)	-	+	-	-	-		
瀬詰崎沖(長崎)				+			
島原沖(長崎)				+			
A-2(佐賀)	+						
B-2(佐賀)	+						
B-3(佐賀)	+						

注) 1. 、 で網掛けしている項目は、有意水準 5%で有意な変化傾向が認められたことを示す。 / はデータがないものを示す。

2. 回帰直線の傾きがプラスの場合”+”、マイナスの場合”-”とする。

資料：環境省(2004年)「第9回有明海・八代海総合調査評価委員会 資料-6-1 有明海における公共用水域水質測定結果」